

<英語英文学科>

中学校教諭一種免許状(外国語(英語))・高等学校教諭一種免許状(外国語(英語))

各段階における到達目標

履修年次	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	
年次 時期			
1年次	前期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」の各領域における学修を通して身に付ける。	
	後期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」の各領域における学修を通して身に付ける。	①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。 ④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。 ⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。	①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身に付け、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ②学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。 ③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。 ④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。 ⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。 ②中・高の生徒が英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につけることが出来るようにするための指導法の基礎を養う。	①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ②道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。 ③総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。 ④特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。 ⑤介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。 ⑥障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑦ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	前期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。 ②第二言語習得研究、外国語教授法の歴史的流れと現在の主たる教授法について英語を通して理解し、実践力をつける。	①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さや課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。 ④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。 ⑤現代的な教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。 ⑥特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ⑦体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ⑧体験に関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ⑨体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。
	後期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。 ②4年次において充実した教育実習ができるように、学習指導案の作成等、学校現場で指導できる実践力、応用力を身に付ける。 ③主要な教授法及び指導法を理解し、中・高の生徒に対して適切な指導を行うことができる実践的な能力と資質を模擬授業等を通して養う。	①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。 ②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。 ③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。 ⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。
4年次	前期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を実際に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わるができる。
	後期	①学習指導要領が示す、外国語科(中高)の目標を踏まえて領域ごとに設定された英語科の目標を達成するために、指導者に求められる教科に関わる基礎的な知識及び技能を、「英語学」「英語文学」「異文化理解」の各領域における学修を通して身に付ける。	①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

<日本語日本文学科>

中学校教諭一種免許状(国語)・高等学校教諭一種免許状(国語)

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②日本語音声に関する知識ならびに音声認知力と音声実現力を修得することができる。 ③上代・中古・中世の日本文学の特質と方法を理解し、日本文学史の動態を把握することができる。	
	後期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②日本語学の各領域でどのようなことが問題とされ、かつどのような事まで明らかにされているのかをつかむことができる。 ③前近代の日本文学の特質と方法を理解し、日本文学の底流にある本質を捉えることができる。	①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。 ④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。 ⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②歴史的背景や時代の価値観、それと文学作品との関係を理解し、日本文学・日本文化の展開を把握することができる。 ③中国の古典文学と古典詩の基本的な特徴について理解し、作品を読解することができる。	①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身に付け、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ②学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。 ③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。 ④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。 ⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・漢文学の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②文学理論を踏まえた作品分析についての基礎知識を習得し、方法論に基づいた視点で作品を分析することができる。 ③中国の散文と文言小説の基本的な特徴について理解し、作品を読解することができる。 ④中学校及び高等学校学習指導要領における国語科の全体構造、目標、学習内容、学習評価、指導上の留意点を理解し、基礎となる学習指導理論を踏まえ、学習者の実態に基づいて豊かな言語活動を組織し、教材及びICTを効果的に活用して授業設計を行うための基本的な考え方を身に付けることができる。	①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ②道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。 ③総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。 ④特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。 ⑤介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。 ⑥障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑦ノーモラライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	前期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②文字を手書きすることの意義を踏まえ、書写指導のための基礎的な知識・技能および表現力を身に付けることができる。 ③文章を書くための知識と方法を学び、グループワークによる紹介文集の作成を通して大学生として、社会人として、さらに中学校・高等学校国語科教師として求められる文章表現力及び音声言語活用能力の向上を図るとともに、国語科教育における「書くこと」の学習指導法を身に付けることができる。 ④中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容について理解を深め、学習指導理論を踏まえて、「読むこと」の具体的な実践事例に基づいて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を身に付けることができる。	①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さと課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。 ④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。 ⑤現代的な教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。 ⑥特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ⑦体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ⑧体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ⑨体験後の成果と課題を明らかにして述べるることができる。
	後期	①中学校・高等学校国語科を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国語学・国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②音声表現理論を基礎としてより良く話し聞くための知識と方法を学び、グループによる音声表現番組の制作及び発表を通して、大学生として、社会人として、さらに中学校・高等学校国語科教師として求められる音声言語活用能力及び文章表現力の向上を図るとともに、国語科教育における「話すこと・聞くこと」の学習指導法を身に付けることができる。 ③中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容等を踏まえ、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な能力を身に付けることができる。	①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。 ②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。 ③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。 ⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とそれの際に必要な組織的な取り組みや、家庭・地域、専門機関との連携を考え、説明できる。
4年次	前期		①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
	後期		①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

<日本語日本文学科>

高等学校教諭一種免許状(書道)

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②上代・中古・中世の日本文学の特質と方法を理解し、日本文学史の動態を把握することができる。 ③高等学校芸術科書道教員に必要な書の基礎的な表現技法を理解し、表現力を修得することができる。	
	後期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②前近代の日本文学の特質と方法を理解し、日本文学の底流にある本質を捉えることができる。 ③高等学校芸術科書道教員に必要な書の基礎的な表現技法を理解し、表現力を修得することができる。	①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。 ④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。 ⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②歴史的背景や時代の価値観、それと文学作品との関係を理解し、日本文学・日本文化の展開を把握することができる。 ③中国の古典文学と古典詩の基本的な特徴について理解し、作品を読解することができる。 ④高等学校芸術科書道教員に必要な書の歴史および書論、鑑賞法に関する知識を修得することができる。 ⑤書風の違いや用筆・運筆といった技術的な表現及び筆者の個性・時代背景を表現し説明できる力を修得することができる。	①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身に付け、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ②学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。 ③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。 ④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。 ⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②文学理論を踏まえた作品分析についての基礎知識を習得し、方法論に基づいた視点で作品を分析することができる。 ③中国の散文と文言小説の基本的な特徴について理解し、作品を読解することができる。 ④高等学校芸術科書道教員に必要な書の歴史および書論、鑑賞法に関する知識を修得することができる。 ⑤書風の違いや用筆・運筆といった技術的な表現及び筆者の個性・時代背景を表現し説明できる力を修得することができる。	①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ②道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。 ③総合的な学習(探究)の時間的意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。 ④特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。 ⑤介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。 ⑥障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑦ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	前期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②高等学校芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解することができる。 ③学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めることができる。 ④様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 ⑤高等学校芸術科書道教員に必要なさまざまな書体の表現技法や説明できる知識を身に付けることができる。	①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐり理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さや課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的に3点は重視する。 ③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。 ④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。 ⑤現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。 ⑥特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ⑦体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ⑧体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ⑨体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。
	後期	①高等学校芸術科書道を指導するために必要な基礎的な知識及び技能を、国文学・漢文学・書道の各専門分野の学びを通して修得することができる。 ②高等学校芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解することができる。 ③学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めることができる。 ④様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 ⑤高等学校芸術科書道教員に必要なさまざまな書体の表現技法や説明できる知識を身に付けることができる。	①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。 ③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。 ⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭・地域、専門機関との連携を考え、説明できる。
4年次	前期		①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実にして記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わるができる。
	後期		①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

<現代社会学科>

中学校教諭一種免許状(社会)・

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)・高等学校教諭一種免許状(公民)

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期	①現代政治の諸問題について基本的な知識を身につける。 ②現代政治の諸問題について自分の議論を組み立て、適切に文章化できる。 ③現代の政治についての知識をもとに、社会のさまざまな問題に主体的に取り組むことができる。 ④社会学の基礎的な事項について説明できる。 ⑤現代的なテーマについて社会学的観点から考察することができる。	
	後期	①好みや感情によってではなく客観公平な目で正義を見きわめる力(legal mind という)を養う。 ②法律の基礎や裁判員制度にかかわる基礎知識(刑法の基礎部分)の習得を通して正義や権利擁護について考えることができる。 ③基礎的なミクロ経済学の考え方に基いて現実世界の問題を深く理解できるようになること。 ④社会史研究とはいかなるものかについて、テーマの多様性と方法論の基礎を身につける。 ⑤高等学校までに学んできた歴史とのつながりある相違点を理解することができる。 ⑥社会史研究のこれまでの流れ(研究史)についての基礎的な知見を獲得する。	①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。 ④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。 ⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者をめざし、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。 ②学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。 ③しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、現代的な教育課題に対応でき、ICTを活用した教材作成ができるようになる。 ④社会・公民科教員として必要な専門的知識や教育方法の基礎を学び、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力と資質を身につける。	①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身につけ、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ②学習指導要領を基にして編成する教育課程の持つ意義が理解できる。 ③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。 ④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。 ⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者をめざし、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得し、表現できる。 ②学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。 ③しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、様々な教育課題に対応でき、ICTを活用した発展的な教材作成ができるようになる。	①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ②道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。 ③総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。 ④特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。 ⑤介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。 ⑥障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑦ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	前期	①平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の目標と内容を理解することができる。 ②平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の内容を踏まえて、年間指導計画や単元指導計画を作成することができる。 ③年間指導計画や単元指導計画を踏まえて、実際の授業を構想し、実践することができる。 ④カリキュラム作成や模擬授業等の経験を通して、学校で教壇に立つ上でのあり方や課題等を理解して整理し、まとめることができる。	①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践授業を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さや課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実施する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。 ④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。 ⑤現代的な教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。 ⑥特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ⑦体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ⑧体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ⑨体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。
	後期	①中学校社会科及び高等学校地歴科・公民科の学習指導に関する専門的知識や技術を習得し、表現できる。 ②模擬授業を通して中・高の生徒に対して適切な指導を行う基礎的な技能が獲得できる。 ③指導と一体化に必要な評価の基礎的技法を習得し、表現できる。 ④社会科・地歴科・公民科の各分野の教材研究をもとに学習指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。 ⑤授業観察及び授業実践を通じて、専門的知識や教科指導の技術を習得、表現するとともに、教師としての使命感を体得する。	①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や資質を身につける。 ②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。 ③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。 ⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とそれに必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。
4年次	前期		①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
	後期		①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

〈人間生活学科〉

中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭)・
高等学校教諭一種免許状(福祉)

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、家庭経営学・食物学・情報処理の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学の専門分野より修得する。	
	後期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、家庭経営学・被服学の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学・高齢者福祉・児童福祉・社会福祉援助技術・人体構造及び日常生活行動に関する理解の各専門分野より修得する。	①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。 ④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。 ⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、被服学・食物学・住居学・保育学の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学・児童福祉・社会福祉援助技術・介護理論及び介護技術・加齢及び障害に関する理解の各専門分野より修得する。 ③各授業科目の内容と中高教科「家庭」や高校教科「福祉」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身に付ける。	①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身に付け、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ②学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。 ③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。 ④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。 ⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、家庭経営学・被服学・食物学の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学・障害者福祉・社会福祉援助技術の各専門分野より修得する。 ③各授業科目の内容と中高教科「家庭」や高校教科「福祉」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身に付ける。 ④中高家庭科指導法の基礎を学び、教材分析や授業構想のための知識・技能を修得する。 ⑤福祉科指導法の基礎を学び、教材分析や授業構想のための知識・技能を修得する。	①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ②道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。 ③総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。 ④特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。 ⑤介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。 ⑥障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑦ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	前期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、被服学・食物学・住居学・家庭電気機械の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学・社会福祉援助技術・社会福祉総合実習の各専門分野より修得する。 ③各授業科目の内容と中高教科「家庭」や高校教科「福祉」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身に付ける。 ④中高家庭科指導法の基礎を学び、教材分析や授業構想のための知識・技能を修得する。 ⑤福祉科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得する。併せて、高校教科「福祉」の授業を構想・実践・省察するという一連の授業実践研究の方法と態度を身に付ける。	①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さと課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。 ④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。 ⑤現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。 ⑥特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ⑦体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ⑧体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ⑨体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。
	後期	①中高教科「家庭」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、被服学・食物学・住居学の各専門分野より修得する。 ②高校教科「福祉」の指導に必要な基礎的知識及び技能を、社会福祉学・社会福祉援助技術の各専門分野より修得する。 ③各授業科目の内容と中高教科「家庭」や高校教科「福祉」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身に付ける。 ④中高家庭科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得する。併せて、中高教科「家庭」の授業を構想・実践・省察するという一連の授業実践研究の方法と態度を身に付ける。	①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。 ②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。 ③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。 ⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。
4年次	前期		①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
	後期		①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

＜国際文化学科＞

中学校教諭一種免許状(英語)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①中学校(英語)を目指すにあたり、グローバル化や日本以外の国々の多文化についての基礎的な知識を身につけ、幅広い視野を養う。 ②高等学校までに学んだ英語力をベースに、英語4技能の基礎的な力を向上させる。
	後期	①英語4技能を学ぶとともに、英文法の体系を学び基礎を固める。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身につけ、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ③特別な支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難や主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえた実際の指導や特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①英語学をはじめ、英語を教えるため知識・技術の基盤づくりを行うとともに、さらなる英語力の向上を目指す。 ②英語圏の文学を通して、英語圏の文化を知り、理解を深める。 ③日本人が苦手とする、英語でのやり取りや発表などに力を入れ、実践力を養う。 ④教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的な知識を身につけ、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ⑤学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義を理解し、教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解してカリキュラム・マネジメントの手法を獲得し、理論的・実践的な資質を培って学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成するとともに、ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①英語圏を中心とした国々の異文化を理解することで、グローバル社会を広い観点で捉えることができる。また、実際に体験交流を通して英語に触れ、コミュニケーション力を高める。 ②授業を通じて中学校における英語の学習・指導に関する諸理論の理解を深めるとともに、授業実践に必要な言語の諸要素や文化的側面、生徒理解に基づく指導・評価の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。 ③教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ④道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけ、自分なりの道徳教育の構想とその具現化を示すことができる。 ⑤総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身につけて表現できる。 ⑥特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身につけて表現できる。 ⑦介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身につける。 ⑧障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。 ⑨ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。
3年次	通年	①特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。 ②体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。 ③体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ④体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。
	前期	①授業内・授業外において英語習得を促進するための指導法・評価法の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。 ②学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ③中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得することを旨とし、学習指導をめぐめる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりに関する「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さや課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を身につけることができる。
	後期	①中学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、英語の授業づくり、指導方法、評価方法に関する知識・技能を身につける。 ②第二言語習得理論にもとづく英語学習を促進するための知識・技能を身につける。 ③学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方及び個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組み、家庭、地域、専門機関との連携など教育相談の意義と課題を理解するとともに、学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。
4年次	通年	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的な技術を身に付けて身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を確実に理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
	後期	①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

高等学校教諭一種免許状(英語)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①高等学校(英語)を目指すにあたり、グローバル化や日本以外の国々の多文化についての基礎的な知識を身につけ、幅広い視野を養う。 ②高等学校までに学んだ英語力をベースに、英語4技能の基礎的な力を向上させる。
	後期	①英語4技能を学ぶとともに、英文法の体系を学び基礎を固める。 ②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身につけ、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ③特別な支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難や主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえた実際の指導や特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①英語学をはじめ、英語を教えるため知識・技術の基盤づくりを行うとともに、さらなる英語力の向上を目指す。 ②英語圏の文学を通して、英語圏の文化を知り、理解を深める。 ③日本人が苦手とする、英語でのやり取りや発表などに力を入れ、実践力を養う。 ④教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的な知識を身につけ、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ⑤学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義を理解し、教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解してカリキュラム・マネジメントの手法を獲得し、理論的・実践的な資質を培って学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成するとともに、ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①英語圏を中心とした国々の異文化を理解することで、グローバル社会を広い観点で捉えることができる。また、実際に交流を通して英語に触れ、コミュニケーション力を高める。 ②授業を通じて高等学校における英語の学習・指導に関する諸理論の理解を深めるとともに、授業実践に必要な言語の諸要素や文化的側面、生徒理解に基づく指導・評価の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。 ③教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ④総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身につけて表現できる。 ⑤特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身につけて表現できる。
3年次	前期	①授業内・授業外において英語習得を促進するための指導法・評価法の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。 ②学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ③中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得することを旨とし、学習指導をめぐめる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりに関する「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さや課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を身につけることができる。
	後期	①中学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、英語の授業づくり、指導方法、評価方法に関する知識・技能を身につける。 ②第二言語習得理論にもとづく英語学習を促進するための知識・技能を身につける。 ③学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。 ④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方及び個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組み、家庭、地域、専門機関との連携など教育相談の意義と課題を理解するとともに、学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。
4年次	通年	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。 ③生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的な技術を身に付けて身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ⑥学級担任の役割と職務内容を確実に理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
	後期	①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。

＜情報デザイン学科＞
 高等学校教諭一種免許状(情報)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①情報科における基礎的な知識であるプログラミングや数学について、高等学校での情報科・数学科での学びを進展させ、基礎的な理解を定着する。 ②英語科目の学習を通して、プログラミングにも求められる語彙力や、海外製ソフトウェアのマニュアルなどの英語文献の読解力を習得する。 ③入学後の早い時期にアカデミックスキルを身につけながら、自律的な学習者としての姿勢や主体性を身につける。
	後期	①情報系・データ系の包括的科目での学習により、情報学やデータサイエンスに関する分野を俯瞰的に理解し、代表的な応用範囲について説明できる。 ②前期の学びと専門科目をつなぐプログラミング・数学科目の学習により、専門的な情報学の学びに必要な知識や技術を身につける。 ③情報社会に参画する上での情報セキュリティや情報倫理についての十分な理解を身につけ、規範的な行動ができる。 ④現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身につけ、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。 ⑤特別な支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難や主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえた実際の指導や特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。
2年次	前期	①コンピュータに関する専門科目の学習により、コンピュータという機械の性質や特性を専門的に理解する。 ②アルゴリズムやデータ構造、プログラミングに関する専門科目の学習により、代表的なアルゴリズムや典型的なデータ構造を用いたプログラムを作成できる。 ③ネットワークに関する専門科目の学習により、ネットワークを介して機械が通信するための基盤技術を理解し、小規模なネットワークを設計できる。 ④教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身につけ、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。 ⑤学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義を理解し、教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解してカリキュラム・マネジメントの手法を獲得し、理論的・実践的な資質を培って学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成するとともに、ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。
	後期	①オペレーティングシステムの構成に関する学習と演習により、現代のコンピュータを実現する各要素技術について理解する。 ②教科教育法の学習により、情報科全体の構造を俯瞰的に理解し、全体の構造を踏まえた授業計画を検討できる。 ③教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。 ④総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身につけて表現できる。 ⑤特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身につけて表現できる。
3年次	前期	①PBL(Problem-Based Learning)や研究演習の学習により、情報学やデータサイエンスに関する専門知識を実践的な問題解決に応用できるとともに、情報科と総合的な探究の時間の連携について構想できる。 ②教科教育法の学習により、情報科の各科目・各単元における内容を理解し、個々の授業における学習指導案を構想できる。 ③学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。 ④中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得することを目指し、学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を身につけることができる。
	後期	①PBL(Problem-Based Learning)や研究演習の学習により、情報学やデータサイエンスに関する専門知識を用いて行った実践的な問題解決について、実践を批判的に振り返り、よりよい解決案を提案できる。 ②教科教育法の学習と模擬授業により、情報科の各科目・各単元について、自ら作成した学習指導案に基づいて、学校現場での実践に近い授業を実施できる。 ③情報技術やデータサイエンスが現代社会でどのように活用されているか学ぶことにより、情報技術の実社会での利用状況や、大規模な社会システムにおける情報技術の活用状況を理解する。 ④学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。 ⑤全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方及び個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組み、家庭、地域、専門機関との連携など教育相談の意義と課題を理解するとともに、学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。
4年次	通年	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実に応じて記録することができる。 ②教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ③生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。 ④学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わるができる。
	前期	①情報学やデータサイエンスに関する卒業研究の構想と設計により、教員として求められる研究力のうち、研究課題の設定と手法の検討ができる。 ②多様なメディアの現代的な活用方法を学習することにより、高度なメディアの活用方法やコンテンツの作成方法を身につける。
	後期	①情報学やデータサイエンスに関する卒業研究の実施と評価・総括により、教員として求められる研究力のうち、実現可能性や論理性をもった研究の実施能力を身につける。 ②教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。 ③教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。

<児童学科>

幼稚園教諭一種免許状

各段階における到達目標

履修年次		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期		<p>○「教職基礎論」教職の意義、教職の役割、教員の役割、資質能力、職務内容等について身に付けることができる。教職の実務について観察体験することで、教職を志す意欲を高めることができる。自らの適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することができる。</p> <p>○「特別支援教育基礎論」特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して、それらを自分のことばで表現できる。主たる障害の特性を理解し、それらを踏まえての実践的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。特別支援の視点を取り入れた保育・教育の基礎的事項を自分のことばで表現できる。</p>
	後期		<p>○「教育原理」教育の理念や概念について、一般的に体系化された教育理論を理解するとともに、歴史や思想について把握し、これまでの教育や学校の営みの理解をする。また、具体的な社会や人々の姿を反映させて教育課題を考えていき、これらの社会を切り拓く教育像を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>○「総合演習Ⅱ」演習形式の授業に慣れる。研究課題を通して、視野を広げ、問題点を見つけることができる。他者の意見を聞き、自分の考えを表明することができる。自らが調べた内容について、論理的で分かり易く、説得力のある発表やレポート作成等を行うことができる。</p>
2年次	前期	<p>○「健康の指導法」幼児期の個人差が大きい心と体の育ちを教育要領に基づいて理解する。運動遊びや伝承遊びなどの遊びを通して子どもが味わう楽しさを理解し、幼児期に必要な遊びについて構想するとともに、発達段階に応じた指導法を習得する。子どもの健康な生活と安全管理における教師の役割を理解する。</p> <p>○「環境の指導法」幼稚園教育の基本は、「環境を通して行う教育」であり、幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。領域の意味と考え方、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。具体的な指導場面を想定して、環境構成や教師の援助を考えることができる。</p>	<p>○「教育・学校心理学」教育心理学に関する基礎的理解を通して、教育者としての子どもとのかかわりについて、各自の考察を深めることができる。</p> <p>○「教育課程の理論と方法」幼児教育における望ましい教育課程等の編成の在り方や内容について理解する。教育課程等と指導計画の関係や内容について理解する。幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。</p> <p>○「指導法の理論と方法」これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、環境を通して行う保育の具体的な内容や方法について理解する。保育現場等における実践にふれ、子どもを観る目を養い、環境構成及び子どもの主体的な活動を促す関わり方や発達に応じて支援する力を身に付ける。情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示できるようになるとともに、保育者自身の情報モラルの向上と、子どもの情報活用能力を育成する方法を修得する。</p>
	後期	<p>○「子どもと健康」幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などにおける幼児期の特徴や意義を理解し、それらを説明することができる。幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、幼児期の特徴や意義について理解したことを、実際の保育の場面でどのように関連させていくことができるのかを話し合ったり、発表したりすることができる。幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、幼児期の特徴や意義について学んだこと、ボランティアや保育所実習などで経験したことを結びつけて、今後の自身の保育をどのように行っていきたいかについてまとめることができる。</p> <p>○「環境の指導法」幼稚園教育の基本は、「環境を通して行う教育」であり、幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。領域の意味と考え方、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。具体的な指導場面を想定して、環境構成や教師の援助を考えることができる。</p> <p>○「言葉の指導法」幼稚園教育要領及び保育所保育指針等のねらいや内容、小学校の教科とのつながりを理解する。乳幼児の言葉の発達について理解し、集団生活の意義や保育者の役割について探究する。絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の意義を理解し、実践を通して指導技術を習得する。演習を通して自らのコミュニケーション能力を磨く。</p> <p>○「音楽表現の指導法」子どもの音楽的成長と発達について理解する。子どもの感性を育むための音楽の役割について探求する。生活や遊び場面における、子どもの音楽的表現や育ちをみとり、理解する力を身につける。幼稚園・保育所・認定こども園において、音楽実践を構想する力を習得する。</p> <p>○「身体表現の指導法」幼稚園教育要領に示された「表現領域」のねらい及び内容を理解することができる。幼児の身体表現の内容とその背景となる理論について理解を深めることができる。幼児の発達段階に応じた多様な表現教材を取り上げ、それぞれの特色ある表現の指導方法を、実技を通して習得することができる。</p>	<p>○「幼児理解及び教育相談の理論と方法」幼児理解の知識と、幼児理解を深めるための基礎的な態度を身に付ける。幼児を理解するための具体的な方法について知る。教育相談の意義と理論を学び、保育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。</p>
3年次	前期	<p>○「人間関係の指導法」領域「人間関係」の目指すものを踏まえ、そのねらい及び内容等を理解する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「人間関係」に深い項目内容について、具体的な事例をもとに考え、その重要性を理解する。幼児の姿から、具体的な保育の構想をもとに、指導案を作成する方法を理解する。</p> <p>○「造形表現の指導法」幼稚園教育要領・表現の目標と内容について理解する。制作では、適切な素材・使用方法を用いながら現場で役立つ作品を作ること。題材や素材の知識領域を広め、造形能力を高めること。また、適切な造形環境を設定する視点を考察し、様々な場面での配慮を想定することで、保育実践力を身につけること。</p>	<p>○「学校経営論」学校経営の基礎的な知識を身に付けて、それに関連する課題についてディスカッション等を通して考えることができる。学校と地域との連携の大切さについて理解することができる。学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けることができる。</p> <p>○「初等教育実習事前事後指導」教育実習の意義を理解し、幼稚園実習に積極的に向き合うことができる。教育実習生として園の教育活動に参画する意識をもつことができる。指導計画作成の意義について理解を深め、保育を構想することができる。教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる。</p> <p>○「初等教育実習」実習日誌の記述を通して、日々の保育を適切に振り返ることができる。幼稚園現場の組織や運営の在り方、幼児理解や人間関係づくり、学級経営や環境整備、教材研究の在り方などを学び、保育を構想し実践することができる。教師としての豊かな資質と力量を身につけ、積極的に子どもと関わる事ができる。</p>
	後期	<p>○「子どもと人間関係」幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。乳幼児期の人と関わる力の育ちと、集団生活における人間関係の育ちを総合的に理解する。</p> <p>○「子どもと環境」幼児を取り巻く環境と幼児の発達との関係性やその意義を理解する。幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。標識や文字等、日常生活の中にある情報や施設等と乳幼児との関わりについて、幼児の発達と関連付けて理解する。</p> <p>○「子どもと言葉」人間としての言葉の意義や機能を理解する。人間としての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能について、説明できる。乳幼児の言葉の発達過程について、理解し説明できる。言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達を合わせて説明できる。幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。児童文化財について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>○「子どもと表現」領域「表現」における理念を踏まえ、幼児期の子どもの表現やその発達について説明できる。また、領域「表現」のねらいや内容、理論を理解するとともに、子どもの表現の育ちを支える保育者の援助や環境構成を考え、記述できる。さらに、自らが表現することを楽しみ、それを実現するための環境について分析できる。</p>	<p>○「初等教育実習事前事後指導」教育実習の意義を理解し、幼稚園実習に積極的に向き合うことができる。教育実習生として園の教育活動に参画する意識をもつことができる。指導計画作成の意義について理解を深め、保育を構想することができる。教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる。</p> <p>○「初等教育実習」実習日誌の記述を通して、日々の保育を適切に振り返ることができる。幼稚園現場の組織や運営の在り方、幼児理解や人間関係づくり、学級経営や環境整備、教材研究の在り方などを学び、保育を構想し実践することができる。教師としての豊かな資質と力量を身につけ、積極的に子どもと関わる事ができる。</p>
4年次	前期		
	後期		<p>○「教職実践演習」大学4年間で学んだ学習知と教育実習、基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知を総合して考えることができる。使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的な指導力をもった教員としての自覚をもつことができる。</p>

<児童学科>

小学校教諭一種免許状

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期		<p>○「教職基礎論」教職の意義、教職の役割、教員の役割、資質能力、職務内容等について身に付けることができる。教職の実務について観察体験することで、教職を志す意欲を高めることができる。自らの適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することができる。</p> <p>○「特別支援教育基礎論」特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して、それらを自分のことばで表現できる。主たる障害の特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。特別支援の視点を取り入れた保育・教育の基礎的事項を自分のことばで表現できる。</p>
	後期	<p>○「生活」生活科創設の趣旨、目標、内容の構成について学んでいくことで、何を指す教科なのかを説明することができる。生活科の内容に関わる具体的な活動や体験を行う演習を通して、生活科の指導に必要な教材研究の方法を身に付けることができる。</p>	<p>○「教育原理」教育の理念や概念について、一般的に体系化された教育理論を理解するとともに、歴史や思想について把握し、これまでの教育や学校の営みを理解する。また、具体的な社会や人々の姿を反映させて教育課題を考えていき、これらの社会を切り拓く教育像を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>○「総合演習Ⅱ」演習形式の授業に慣れる。研究課題を通して、視野を広げ、問題点を挙げるができる。他者の意見を聞き、自分の考えを表明することができる。自らが調べた内容について、論理的で分かり易く、説得力のある発表やレポート作成等を行うことができる。</p>
2年次	前期	<p>○「国語Ⅰ」国語科の目標と内容の構成について、系統的に学んでいくことで、何を指す教科なのかを理解することができる。教材研究の進め方を知り、実践することができる。国語科の指導に必要な知識・技術と素養を身に付けることができる。</p> <p>○「算数」算数科の目標と内容の構成について系統的に学んでいくことで、何を指す教科なのかを説明することができる。算数科の指導に必要な教材研究の方法を知り、実践することができる。</p> <p>○「音楽Ⅰ」保育所・幼稚園や小学校で扱われること多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解し、合奏することができる。音の違い(強弱・リズム・音色等)に気づき、表現することができる。</p> <p>○「体育」指導者としての視点を持ちつつ、意欲的に主体的に取り組むことができる。幼児の発達特性を踏まえた指導計画を立て、模擬保育における運動遊びの指導の成果と課題を話し合ったり発表したりすることができる。「保育の現場で目指したい運動遊びの指導」について、講義で学んだ理論、実技や模擬保育の内容を関連づけながら、深めた考えをレポートにまとめることができる。</p> <p>○「生活科指導法」学習指導要領に示された生活科の目標と学習内容を知り、説明することができる。生活科の学習内容とその背景となる学習指導理論について知ることができる。具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。</p>	<p>○「教育・学校心理学」教育心理学に関する基礎的な理解を通して、教育者としての子どものかかわりについて、各自の考察を深めることができる。</p> <p>○「道徳教育の理論と方法」道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や特質、指導計画等を理解し、説明することができる。教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身に付けることができる。道徳科の内容項目について理解し、説明することができる。</p>
	後期	<p>○「社会」小学校社会科の目標・内容について理解し、概要を説明することができる。社会科の授業づくりに関する基礎的な知識や技能を習得し、それらを反映した学習指導案を作成することができる。</p> <p>○「理科」学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き、学年ごとの観察、実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。めあてに対する予想やその根拠を考えた後、班内で協力して観察、実験を行い、考察を書くことができる。観察、実験の基礎となった測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。観察や実験をした後、教える立場の教師目線でも考えたことをレポートにまとめることができる。</p> <p>○「音楽Ⅱ」保育所・幼稚園や小学校で扱われること多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。音の違い(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)に気づき、表現することができる。各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。</p> <p>○「造形Ⅱ」造形教育に関する知識・関心を深めることができる。造形指導上に必要な技術を身に付けることができる。</p> <p>○「家庭」家庭科の衣・食・住に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。「家庭」の実践的・体験的な活動を通して、どの題材を用いて、どのように授業を行いたいかを考えながら受講し、前期の家庭科指導法に活用することができる。新しい教材開発を考えることができる。</p> <p>○「国語科指導法」学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。国語科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案に記すことができる。</p> <p>○「算数科指導法」学習指導要領に示された算数科の目標と学習内容を知り、説明することができる。算数科の学習内容とその背景となる学問・数学と関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりを実践することができる。具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。</p>	<p>○「教育課程論」教育課程の意義、学習指導要領の内容等を理解し、説明することができる。教育課程編成に必要な事項を整理しながら、教育のあり方やカリキュラムマネジメント等について考えたことをレポートやプレゼンなどで表現することができる。ディスカッションの中で、学んだ事を基に教育課程についての理解や考えを深め、よりよい教育課程を創り上げるための自分の考えを積極的に出し合うことができる。</p>
3年次	前期	<p>○「小学校英語」小学校外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。小・中学校の接続を踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を理解し、記述することができる。</p> <p>○「書道」文字教育の意義が説明できる。正しい姿勢・執筆法が実行できる。字形の整え方を理解し、演習・実技を通して用筆法を実行できる。実技の結果について、自己評価・相互評価を実行できる。</p> <p>○「社会科指導法」学習指導要領に示された社会科の目標や内容について説明することができる。社会科の学習内容とその背景となる学習理論について理解を深め、授業づくりに活用することができる。具体的な場面を想定した学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p> <p>○「理科指導法」学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容、教材研究の視点等を理解し、模擬授業を行うことができる。指導技術の基礎・基本を身に付けることができる。</p> <p>○「音楽科指導法」小学校音楽科の目標や内容を理解する。子どもの発達過程を考慮した、教材の効果的な活用法と学習指導理論について理解する。具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践することができる。</p> <p>○「図画工作科指導法」学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解することができる。図画工作科の学習内容のその背景となる学習指導理論の理解と内容の実践体験を味わうことができる。授業内容を想定した授業計画をおこなひ、指導案を記すことができる。</p> <p>○「家庭科指導法」教材研究の深さが授業を成功させる要であり、児童の学習意欲とも深く関連している。家庭の授業で学んだ衣・食・住を基盤に授業構想を考え、指導案を作成して模擬授業を実施し、教師としての資質を身に付ける。</p> <p>○「体育科指導法」学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。体育科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深め、指導案作成や模擬授業に活かすことができる。具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案を作成することができる。</p>	<p>○「学校経営論」学校経営の基礎的な知識を身に付けて、それに関連する課題についてディスカッション等を通して考えることができる。学校と地域との連携の大切さについて理解することができる。学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けることができる。</p> <p>○「特別活動の指導法」学習指導要領に示された特別活動の目標・内容について理解を深め、学校教育における特別活動の意義について説明することができる。特別活動の特質、指導原理について理解し、集団形成への効果的な指導の在り方について考えることができる。学級活動の指導計画や指導案を作成することができる。</p> <p>○「教育方法論」子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を説明することができる。教育の目的に適した指導技術を知り、身に付けようとする。情報機器や教材の効果的な活用の仕方について基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>○「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」学校現場におけるICT活用の意義や理論について理解する。ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する。情報活用能力を育成する意義及び育成方法を身に付ける。</p> <p>○「生徒指導の理論と方法」生徒指導の教育的意義を積極的な面から考え、一人一人の子どもにとって学校生活を有意義かつ充実したものとするための生徒指導のあり方を理解する。校内の組織を活用し、また関係機関との連携を密にして、総合的な生徒指導を推進していくための素養を身に付ける。</p> <p>○「初等教育実習事前事後指導」事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識をもつことができる。事後指導では、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し説明することができる。教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について知ることができる。事前事後指導を通して、教育実習の意義を理解し、学校現場の指導に対して感謝の気持ちをもちそれを表現することができる。</p> <p>○「初等教育実習」児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校現場での実務に対する補助的な役割を担う。教育実習校の児童の実態を踏まえた学習指導、学級経営等を理解し実践する。</p>

<児童学科>

小学校教諭一種免許状

各段階における到達目標

履修年次		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
	後期	<p>○「小学校英語科指導法」外国語活動・外国語科導入の背景及び目標と内容について系統的に学ぶことを通して、児童がどのような資質・能力を身に付けることをねらった活動・教科であるのかを理解し、説明することができる。児童期の第二言語習得の特徴と発達段階を踏まえた学習指導理論について理解し、説明することができる。外国語活動・外国語科の実践に必要な指導技術及び授業づくりに必要な知識・技能を身につけ、模擬授業をすることができる。</p>	<p>○「総合的な学習の時間の指導法」「総合的な学習の時間」の意義と原理を捉えた上で、目標や育成する資質・能力及び内容と単元計画の基本的な考え方を説明することができる。探究的・協同的な学習における学習指導や学習評価のあり方について理解し、演習等を通して技能を習得することができる。「総合的な学習の時間」について単元の単位で指導内容を構想することができる。学生同士の協同的な学習を通じて、プレゼンテーションスキルやライティングスキルを身につけることができる。</p> <p>○「初等教育実習事前事後指導」事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識をもつことができる。事後指導では、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し説明することができる。教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について知ることができる。事前・事後指導を通して、教育実習の意義を理解し、学校現場の指導に対して感謝の気持ちをもちそれを表現することができる。</p> <p>○「初等教育実習」児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校現場での実務に対する補助的な役割を担う。教育実習校の児童の実態を踏まえた学習指導、学級経営等を理解し実践する。</p>
4年次	前期		
	後期	<p>○「国語Ⅱ」国語科を学ぶこと(学力観)について、自分なりの考えをもつことができる。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと(文学教材・説明文教材)」の単元を構想して、授業のつくりかたを身につけることができる。漢字指導、ノート指導、音読指導など、日常の授業の中で出会うであろう諸問題について、具体的な指導の方策を身につけることができる。</p>	<p>○「教育相談及び進路指導・キャリア教育の理論と方法」教育相談ならびに進路指導・キャリア教育の意義と課題を理解し、説明できる。学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解し、説明しできる。個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の方法と、その際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。</p> <p>○「教職実践演習」大学4年間で学んだ学習知と教育実習、基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知との統合を図る。使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力身に付けて、4月からの学校現場での勤務に備える。</p>

<児童学科>

特別支援学校教諭一種免許状

各段階における到達目標

履修年次		特別支援教育に関する科目
年次	時期	
1年次	前期	
	後期	○「特別支援教育総論」特別支援の視点を取り入れた保育・教育の基本や多様な学びの場の代表的な取組について理解し、記述できる。インクルーシブな保育・教育についての基礎的事項について理解し、自分自身のことばで説明できる。共生社会の基盤を形成するための一人一人を大切にしたい保育や教育について理解し、それらを踏まえた上での自分自身の考えを記述できる。
2年次	前期	○「知的障害児の心理・生理・病理」知的障害の状態像を理解し説明することができる。知的障害児を取り巻く環境について説明することができる。一人ひとりの特性と生活環境との相互作用について理解し、その影響について説明できる。個々の特徴に応じた支援に関する概要・方法を理解し、計画できる。
	後期	○「肢体不自由児の心理・生理・病理」脳の解剖、局在機能、感覚器官、運動器官の基本的な働き方関連性を知る。脳の発生、脳の分化、成り立ちについて学ぶ。染色体異常、遺伝子異常、発生過程の異常、外因による障害、と病理について学ぶ。肢体不自由児成り立ちについて学ぶ。肢体不自由児にまつわる、生育的な課題、環境の課題などについて理解する。障害児の心理・生理及び病理を理解し、教育・療育・地域の支援についての仕方の基本を知る。 ○「病弱児の心理・生理・病理」主な基礎疾患の原因や症状、日常生活上の留意点を述べることができる。病弱と共に生きる子どもたちの心理を、発達の・心理社会的観点に立って説明できる。病弱と共に生きる子どもの家族の心理を説明できる。病弱と共に生きる子どもたちの生活や人生を支援する方法を提案できる。病弱と共に生きる子どもの家族を支援する方法を提案できる。 ○「LD児等教育総論」限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害の状態像について説明できる。彼らの生活環境とその影響について説明できる。一人一人の特性と環境との相互作用から生じる問題について説明できる。個々の特徴に応じた支援計画を作成することができる。
3年次	前期	○「知的障害児教育総論」知的障害のある児童・生徒の暮らしや教育に関心をもち、その教育の基礎的事項について理解して小レポートにまとめた上でそれを発表できる。基礎的事項の中心は、教育課程編成の考え方・教科と領域を合わせた指導の意味とその代表的な実践例、知的障害の各教科の目標及び内容及全体の構造・自立活動の指導における考え方。理解した基礎的事項を関連づけながら、知的な障害のある児童生徒を育てるための教育のポイントを総合的に考え、自分自身のことばで表現できる。 ○「肢体不自由児教育総論」脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもの理解に基づきつつ、教育支援及び教育課程に関する知識を得て、説明できるようにする。 ○「肢体不自由児教育」肢体不自由教育の歴史や教育的意義、障害特性等について説明できる。多様な教育課程における指導支援や実態に応じた工夫について記述することができる。授業づくりにおいて、児童生徒の実態に応じた教材の工夫を実行できる。
	後期	○「知的障害児教育」障害のある子どものつまずきを捉え、その背景要因を検討した上で記述できる。保育、学校現場における子ども達の生活文脈の中で、多面的な視点から子ども達を捉え、それを具体的なエピソードとして語ったり記述したりできる。障害のある子どもの様子を想像しながら、そのつまずきに対する教材の工夫や支援の手立てを検討し、模擬授業、模擬保育案を作成できる。作成した指導案、保育案を元に模擬授業、模擬保育を行い、その振り返りによる学びや課題の内容をレポートに記述できる。これらの学びの内容を総合的に理解し、多面的な視点から知的な障害のある子どもの保育・教育についてレポートを作成できる。 ○「病弱児教育」病弱教育の意義や特徴について述べることができる。就学指導基準や訪問教育など病弱教育の制度や課題、病弱と共に生きる子どもたちの進路などの課題について説明できる。病弱教育の教育課程の特徴を述べることができる。子どもの疾患や課題に応じた教育的対応あるいは指導上の工夫を提案できる。子どもに関わる教育や医療、福祉に関する問題やその背景などについて、自分の意見を述べることができる。 ○「視覚障害児教育総論」視覚障害児の定義、視覚機能(眼球)について理解し、説明ができる。視覚障害児教育の歴史について知り、現在の就学制度や教育課程について説明できる。全盲児、弱視児、重複障害児、それぞれの実態に応じた教材教具の活用や配慮事項について説明ができる。視覚障害児の生活上や学習上の合理的配慮について説明できる。 ○「聴覚障害児教育総論」聴覚障害児教育の基本概念やシステム、指導法、コミュニケーション方法について説明できる。特別の支援を必要とする聴覚障害児の学習上の困難さや教育的支援について説明できる。課題に関連したスモールグループディスカッションを積極的に実行できる。
4年次	前期	○「特別支援教育実習事前事後指導」実習に臨む基礎的知識を修得して、それを自分のことばで表現できる。特別支援学校での教育実習での自分自身の学びについて、テーマを1つ設定する。そのテーマについて、具体的なエピソードを取り上げながら、視覚的なプレゼンテーションの工夫を行って表現することができる。また、その学びの内容について、自分自身のことばで考察を行うことができる。他の実習生の発表と自分の教育実習での学びを重ね合わせて考察し、その気付き等をレポートにまとめることができる。 ○「特別支援教育実習」障害のある児童・生徒に対する特別支援学校における教育のあり方を理解し、基本的技能を習得する。教育実習での日々の実践を積み重ねて、そこで得た学び、気付き、課題等を実習担当教員に話したり、実習日誌に記述したりすることができる。各教科もしくは各教科と領域を合わせた指導の学習指導案を作成し、授業を実施することができる。
	後期	○「重複障害児教育総論」重複のバリエーションや言語障害を個々の特徴として捉えることができる。重複障害の種類と教育の現場および教育課程について説明できる。個別の指導方法を柔軟な発想で工夫し考案できる。 ○「特別支援教育実習事前事後指導」実習に臨む基礎的知識を修得して、それを自分のことばで表現できる。特別支援学校での教育実習での自分自身の学びについて、テーマを1つ設定する。そのテーマについて、具体的なエピソードを取り上げながら、視覚的なプレゼンテーションの工夫を行って表現することができる。また、その学びの内容について、自分自身のことばで考察を行うことができる。他の実習生の発表と自分の教育実習での学びを重ね合わせて考察し、その気付き等をレポートにまとめることができる。 ○「特別支援教育実習」障害のある児童・生徒に対する特別支援学校における教育のあり方を理解し、基本的技能を習得する。教育実習での日々の実践を積み重ねて、そこで得た学び、気付き、課題等を実習担当教員に話したり、実習日誌に記述したりすることができる。各教科もしくは各教科と領域を合わせた指導の学習指導案を作成し、授業を実施することができる。

<食品栄養学科>

栄養教諭一種免許状

各段階における到達目標

履修年次		栄養に係る教育に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目
年次	時期		
1年次	前期		
	後期		<p>①将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。</p> <p>②現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。</p> <p>④主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実践的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。</p> <p>⑤特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。</p>
2年次	前期		<p>①教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身に付け、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。</p> <p>②学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。</p> <p>③理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。</p> <p>④教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。</p> <p>⑤ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。</p>
	後期		<p>①教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。</p> <p>②総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。</p> <p>③特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。</p> <p>④介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。</p> <p>⑤障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。</p> <p>⑦ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。</p>
3年次	前期		<p>①学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身に付けることができる。</p> <p>②中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。</p> <p>③確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。</p> <p>④学習指導やICT活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身に付ける。</p> <p>⑤現代的な教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。</p> <p>⑥体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。</p> <p>⑦体験に関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>⑧体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。</p>
	後期	<p>①学校給食の意義と役割を理解し、栄養教諭の職務を述べることができる。</p> <p>②食に関する指導の全体計画や各教科等における指導の内容が説明できる。</p> <p>③児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導の必要性と課題を説明できる。</p> <p>④児童・生徒の発達段階に応じた学習指導案を作成し、授業を工夫することができる。</p>	<p>①学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>②教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。</p> <p>③学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。</p> <p>④全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。</p> <p>⑤個別の課題に向き合うための教育相談の方法とそれに必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。</p>
4年次	前期		<p>①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。</p> <p>③児童・生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>⑤児童・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。</p> <p>⑥学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。</p>
	後期		<p>①教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。</p>